

入門者のための

Frequently Asked Question

FAQ

今月の回答者
砂原秀樹、菊地宏明

【アドバイザー】砂原秀樹
奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
WIDE プロジェクト・ボードメンバー

このコーナーでは、みなさんから寄せられたインターネットに関する
質問や疑問についてお答えしていきます。

日頃からわからないなあとと思っている疑問、困っていることなどありましたら
どんなことでもけっこうですから質問を編集部までお寄せください。

宛先は ip-faq@impress.co.jp です。電子メールでの回答はできませんのでご了承ください。

プラグインソフトをいろいろインストールしていますが、どこにインストールすればいいのでしょうか。ブラウザのフォルダーの中に入れるほうがいいのでしょうか。

(太田美鶴さん)

A. プラグインソフトをインストールする場所は、それぞれのWWWブラウザによって指定されています。多くのWWWブラウザは、ブラウザが置かれるフォルダーの中に「Plugins」という名前のフォルダーを用意し、プラグインソフトを起動するために必要なプログラムはそこに集められることが多いようです。どのブラウザでの質問かわかりませんので、WindowsとMacintoshの代表的なWWWブラウザを例にこのフォルダーの場所を見ていきましょう。

① Windows でネットスケープ

まず、Windowsでは、ネットスケープナビゲーターは、WWWブラウザを置いたフォルダーにある「plugins」フォルダーに入れておきます。WWWブラウザの置かれたフォルダーは、WWWブラウザをインストールしたときに指定した場所になります。たとえば、

「C:\ProgramFiles\Netscape\Navigator\Program\plugins」にプラグインを置いておくフォルダーがあるかもしれません。エクスペローラの検索機能を使って、「plugins」をキーに探すとすぐに見つかるでしょう。

② Windows でマイクロソフト インターネットエクスプローラ

マイクロソフトインターネットエクスプローラも、「Plugins」フォルダーに入れておきます。PLUS!パッケージを持っている人なら、「C:\ProgramFiles\Plus!\Microsoft Internet\Plugins」などに見つけられるでしょう。マイクロソフトのサイトからダウンロードしたり、本誌付録CD-ROMからインターネットエクスプローラをインストールしたのなら、該当するフォルダーがないかもしれません。それならば、ネットスケープナビゲーターのpluginsフォルダーでもかまいません。インターネットエクスプローラは、ネットスケープナビゲーターのプラグインフォルダーも探しにいきます。

③ Macintosh

Macintoshでは、ネットスケープナビゲーターや、マイクロソフトインターネットエクスプローラは、どちらもWWWブラウザを置いたフォルダーにある「Plug-ins」フォルダーに入れておきます。Cyberdog1.1日本

語版の場合は、システムフォルダーの「エディタ」フォルダーの中の「Cyberdogライブラリ」フォルダーの「Netscapeプラグイン」フォルダーに入れなければなりません。

プラグインフォルダーの場所は以上ですが、注意しなければならないことがあります。ここに入るファイルは、プラグインの起動に必要なファイルですが、実際に使う再生ソフトをインストールする場所とはかぎりません。たとえば、Windows95でのリアルオーディオのインストールの手順を見てみましょう。起動すると、図1のような画面が表示され、リアルオーディオソフトのインストール先はこの場所（つまりC:\raplayフォルダー）でいいかどうかを聞いてきますが、ここで、pluginsフォルダーに指定を直す必要は



図1 リアルオーディオのインストールでインストール先のフォルダーを指定する画面。通常は表示されたとおりしておく。

ありません。このままNEXTボタンをクリックしてインストールを完了します。インストールが終わったら、新しくできたc:\raplayに、リアルオーディオファイルの再生ソフトなどが入っていることがわかります。一方、pluginsというフォルダーはどうなっているのでしょうか。図3のように、nptra32.dllというファイルができています。これが、リアルオーディオプレイヤーをプラグインとして利用するためのファイルです。

このように、プラグインソフトをインストールする場合は、どこにインストールするかは利用者側が考えなくてもいいようになって

図2 c:\raplayの中身。リアルオーディオの再生ソフトなどが入っている。



いるものがほとんどです。WWWブラウザが必要なファイルを勝手に探して起動できるようにしてくれます。ただし、プラグインソフトのインストール時にWWWブラウザの置かれた場所を聞いてくるものがありますので、その場合は指示に従いましょう。

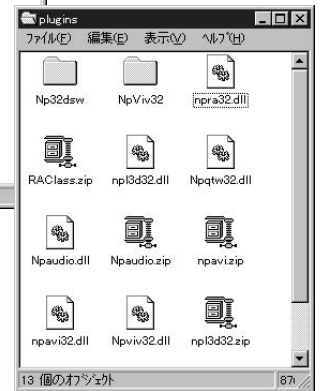


図3 C:\Program Files\Netscape\Program\pluginsの中身。さまざまなプラグインの起動のためのソフトが入っている。

最近、雑誌などで「マイクロソフトインターネットエクスプローラ Ver.3 はネットスケープナビゲーターのプラグインにも対応している」と聞くのですが、両方のブラウザをインストールしている環境で、たとえばショックウェブをインストールしようとする、果たしてどちらのブラウザに対してインストールされるのでしょうか（こんな表現が適しているかどうかはわかりませんが）。一方のWWWブラウザを起動すると「通常使用するブラウザとしますか？」と質問されることがありますが、ひょっとするとこれが関係しているのでしょうか。これを忘れてプラグインをインストールすると、ネットスケープにショックウェブをインストールしているつもりでも、実はインターネットエクスプローラにインストールしてしまっているのでしょうか。気になります。

(匿名希望)

A. インターネットエクスプローラとネットスケープナビゲーターをインストールしているWindowsパソコンでは、ネットスケープナビゲーターに入れておけば問題ありません。インターネットエクスプローラはネットスケープナビゲーターのプラグインフォルダーを探して組み込んでくれます。したがって、プラグインソフトをダウンロードし、セットアップするときにWWWブラウザ

を尋ねられたら、ネットスケープナビゲーターを指定すれば、どちらのWWWブラウザからも利用できます。Macintoshでは、それぞれの「Plug-ins」フォルダーに入れておきます。インターネットエクスプローラ（V2.1）はネットスケープナビゲーターのプラグインフォルダーを探しに行き、組み込んでくれる...ことはしません。そこで、ちょっとした工夫をこらします。

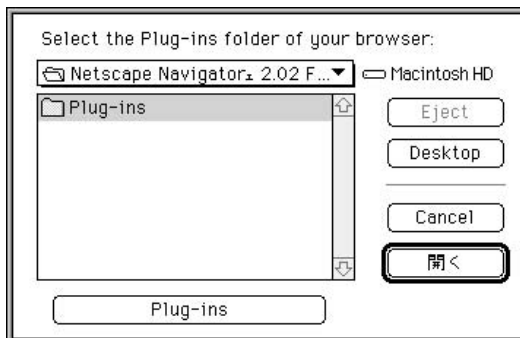
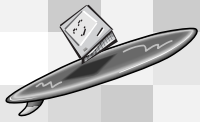


図4 プラグインソフトのインストール時にプラグインフォルダーを聞いてきたら、ネットスケープナビゲーターのPlug-insを指定する。



プラグインソフトをダウンロードし、セットアップするときには、ネットスケープナビゲーターのプラグインフォルダーへ行ってください(図4)。そして、そのプラグインフォルダーのエイリアスを作成して、インターネットエクスプローラのフォルダーに移します。すると、インターネットエクスプローラは自分用のPlug-ins フォルダーだと思っ

て、ネットスケープナビゲーターのPlug-ins フォルダーにあるPlug-ins ソフトを組み込み始めます。この方法なら、ネットスケープナビゲーターのPlug-ins フォルダーにインストールするだけで両方から使えるようになり、手間もディスク使用量も少なくて済みます。

(菊地宏明)

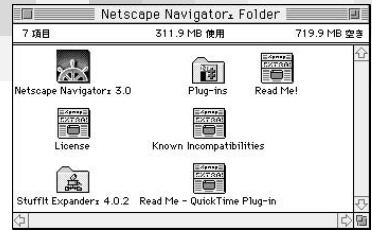


図5 インターネットエクスプローラ2.1のフォルダーにネットスケープのPlug-ins フォルダーのエイリアスを入れておく。

前号で、海外に日本で買ったパソコンを持って行って使えるかという質問がありました。とても参考になりました。実は私も海外出張に行くので、海外にアクセスポイントのあるプロバイダーに加入しようと思っていますが、どんなプロバイダーと契約するのがいいのでしょうか。また、海外からメールを日本語で送ることは簡単に行けるのでしょうか。ほかに海外でインターネットを利用する際のポイントがあったら教えてください。(匿名希望)

A. 海外へ行ったときにアクセスポイントをどうやって確保するか。まず、考えられるのは、行った先のプロバイダーと契約することです。今やアマソンの奥地などに行かないかぎり、どこへ行ってもインターネットサービスプロバイダーはありますので、そこと契約するのです。どこがいいのかと言われると困りますが、とにかく行く前にWWWなどで調べてみるといいでしょう。特にアメリカの場合、ローカル

コール(市内通話)が基本料金に含まれているため、アクセスポイントの自分が宿泊する場所からローカルコールできる範囲にあるか否かを調べておきましょう。

いろいろなプロバイダー

プロバイダーを選ぶ前に考えなければならないのは、多くの場合、長期契約を前提とした契約形態が多いという点です。つまり、最低でも1か月単位での契約となっており、また、解約通知を忘れると帰国してから使ってもいないのに基本料金だけを取られ続けることになります。たびたび海外に行くのであれば、場合によっては日本に国際電話をかけたほうが安くなる場合もあつたりします。

表1に挙げたような、海外にアクセスポイントのあるプロバイダーと契約するのも1つの選択肢だと思います。たとえばPSINet

の場合、日本にもアクセスポイントがありますし、世界中の主要都市にもアクセスポイントがあるため、1つの契約で日本でも世界でもインターネットが使えるようになるわけです。

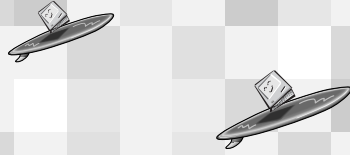
もう1つの可能性としては、コンピュータのPPPサービスを利用する方法です。コンピュータのアクセスポイントはそれぞれ世界中にたくさんありますし、ニフティサーブを利用している人は一緒に契約してアカウントを持っている人も多いでしょう。わざわざ新たな契約をしなくても使えるわけです。そのほかのパソコン通信でも、世界各地にアクセスポイントを用意し、そこからPPPサービスを使えるようにしているところもありますから、自分が使っているパソコン通信を調べてみるのも1つの方法だと思います。

もし、あなたがハワイに旅行に行くなら

	アジア	オセアニア	アフリカ	ヨーロッパ	NIS諸国	北アメリカ	南アメリカ
PSINet		x	x		x		x
IBM							
MSN							
グローバルオンライン	x	x	x	x	x		x

表1 日本で取得したアカウントで海外のアクセスポイントも使えるプロバイダー(地域アクセスポイント)

入門者のための FAQ



ば、とても楽しいプロバイダーがあります。その名も「Hawaii Online」といいますが、さすがハワイ、1週間10ドルというビジターアカウント契約があるので。オンラインサインアップができますから、到着してから契約して、そのまま帰ることもできます（実は筆者も昨年のINET'95の際に使っていました）。

とにかくアクセスポイントの確保については行った先にどんなサービスがあるのかをよく調べてから行きたいのですが、どうしても準備することができないという場合に便利な方法があります。最近では、一定時間分の利用権の付いたパッケージがパソコンショップで売られています。そこで、現地に到着したらまず電話帳をめくって近くのパソコンショップに飛び込んで、それを購入します。パソコンショップの店員に相談すると、適当なプロバイダーを紹介してくれるでしょう。

日本語は問題なし

アクセスポイントは確保できましたので、次の問題は日本語です。実は、この問題はとても簡単です。というより、問題はないのです。現在のインターネットは7ビット文字コード（つまりJISコード）を利用しているが、トラブルが発生するようなことはありません（シフトJISやEUCでも大丈夫ようになってきています）。日本語表示も自分が持っていったパソコンを使うわけですから問題はありません。

海外ですることは、自分宛てに届いたメールを読んで返事を出すこと、自分の会社や大学のコンピュータにTELNETなどでア

クセスすること、WWWを覗いて回ることぐらいだと思います。電子メールの読み書きは、自分が普段利用しているメールのPOPサーバー/SMTPサーバーを利用することになりますから、遠くのアクセスポイントから接続すること以外なら普段と変わりはないのです。TELNETやWWWにしても同様で、遠くからアクセスすること以外、何も変わっていません。

1つだけ工夫が必要だとしたら、この「遠く」から利用するということでしょう。遠くからアクセスをしていると、やはりどんなに太くとも国際回線など混雑した回線を利用する可能性が高くなってきます。したがって、TELNETなどで自分の大学や会社のコンピュータを利用しているといららざるぐらい反応が遅いときがあります。ですから、対話的な処理はできるだけ手元でやるように準備をしておいたほうがいいでしょう。たとえば電子メールも普段利用しているコンピュータにTELNETでログインしてから読むのではなくて、直接自分の組織のPOPサーバにアクセスし、到着した電子メールを自分のパソコンに取り込んでから読んだり、返事を書いたりするようにしたほうがいいでしょう。

ファイアウォールに注意

日本語よりややこしいのが、自分の所属する組織がファイアウォールを設置している場合の対策です。

ファイアウォールは組織内部から外部へのアクセスは自由ですが、組織外から組織内へのアクセスは原則として禁止されています。したがって、組織内のPOPサーバー



図6 海外利用にはとても便利なPSI Net。
URL <http://www.jp.psi.net/>



図7 コンピューサーでもPPP接続が使える。
URL <http://world.compuserve.com/>

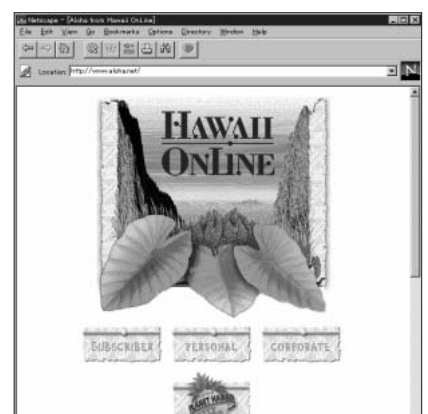


図8 ビジター契約があるハワイのプロバイダーHawaii Online。
URL <http://www.aloha.net/>



写真1 AT&Tのコーリングカード。
日本でも作ることができる。

にインターネットから直接アクセスできないことが多いようです。このような場合は、一時的に海外に行っている期間だけ自分のPOPサーバーをファイアウォールの外側に用意するという準備が必要となります。また、このようなPOPサーバーのセキュリティを守るため、使い捨てパスワードを使うようにするなど、工夫が必要かもしれません。

インターネットサービスプロバイダーのPOPサーバーを利用している場合でも、注意が必要です。あまり多くはないようですが、プロバイダーによってはPOPサーバーへのアクセスをプロバイダーのネットワーク内だけに制限し、それ以外のネットワークからはそのプロバイダーのPOPサーバーにはアクセスできない場合もあるようです。調べておいたほうが良いかもしれません。

得するTIPS

最後に質問にはありませんが、前号のFAQでは海外でモデムを使う際の注意点を話しましたので、さらに知っておくと得する情報をいくつか紹介します。まず、ホテルの部屋でモデムを使おうと思っているなら、ホテルに到着してチェックインするときにフロントでその旨を言いましょう。全部の部屋が対応していない場合でも、たいていの場合、そうした部屋を割り当ててくれます。残念なことにそうした部屋が利用できなかった場合でも、米国なら部屋に設置された電話はRJ-11のケーブルで接続されているのが普通ですから、それを外して接続してみるといいでしょう。ただし、このときケーブルを外すことができないようにRJ-

11のモジュラープラグの爪が折られている場合がありますので、細いドライバーかつまようじを持っていくと助かることがあります。

ただし、注意すべきことが1つだけあります。これは、メッセージランプなど特別な信号が部屋の電話に流れている場合です。たとえば、メッセージがあると電話機にあるランプが光るといった複雑な機能をもつ電話機が部屋にあったら要注意です。この場合は電話機をよく見ると、データポートと書いてあり、そこにRJ-11のケーブルを差しすようになっているはずですが。

それから、電話機や電源コンセントはベッドのサイドテーブルの裏など部屋の限られた場所にしかありませんから、長めのモデムケーブルとACの延長コードを持っていくことをお勧めします（詳しい品は特集274ページでも紹介しています）。

アクセスポイントが近くになって市外通話をかけなければならなくなった場合に便利なのが、AT&TやMCI、Sprintなどのコーリングカードです（写真1）。実は、ホテルから市外通話をするとサービス料が上乘せされていることが多く、非常に高くつく場合があります。そのために、各電話会社と個別に契約し、直接自分のクレジットカードから引き落とししてもらおうというのがアメリカなどでは常識になっています。

国際電話も同様で、AT&Tなどのコーリングカードを利用するか、KDDやIDC、ITJといったところのサービスを利用するようにするとけっこう安くなります。こういったものの利用方法は、旅行ガイドブックや旅行

雑誌の広告、飛行機の機内誌の広告などに載っていますから参考にしてください。

海外展示会での必需品

筆者はインターネットやパソコン関連の展示会やイベントに参加するために海外に行くことがよくありますが、この場合は会場に端末コーナー（あるいは部屋）が用意されているのが最近の傾向です。これらの端末は日本語が表示できないので自分のパソコンを持っていき、PCカードのEthernetインターフェイスで接続して仕事ができるようになります。このとき、Ethernet用の10baseTのケーブルを忘れないようにしています。とくに、RJ-45の延長コネクタが必要になる場合があるので、これを必ず持っていくます。

本来は、海外に行ったらすべてを忘れてメールなんて読まないというのがいいのですが、仕事の関係でそうも言っていられない場合も多いでしょう。とにかく、何ごととも経験です。これもまた楽しいことですから、楽しみながらやってみるといいでしょう。

しかし、何と言っても現地へ行って頼りになると思うのはパソコンショップです。到着したら電話帳で調べて行った先のパソコンショップの場所は押さえておくべきでしょう。別に用事がなくても面白いところですから、まず最初に寄ってみるといいと思いますよ。
(砂原秀樹)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp